

「新しい年を迎えて」

校長 中川 豊 巳

明けましておめでとうございます。

新しい一年が素晴らしい年になりますよう、心からお祈り申し上げます。

私の家では、年末に家族でNHK紅白歌合戦を見るのが恒例行事です。今年は年末に、娘たちが日本からボストンに来てくれたので、朝早く起きて生放送で紅白歌合戦を二年ぶりに家族で見ました。毎年、この番組を見ながら、流れてくる歌にその一年の出来事を重ね合わせていましたが、ボストンに来てからはほとんど日本の歌を聴く機会がないため、新鮮な思いで歌を聴いていました。

その中で、ふと、心に飛び込んでくる歌がありました。それは、「ふるさと」という歌でした。この歌は、元々は、日本を見直すことを目的に故郷を歌ったものとして3年前に作られたとのことでした。昨年の紅白歌合戦でも、それに東日本大震災の復興を皆で支える想いが伝わる2番の歌詞が新たに加えられ、歌われていました。そして、今年、この「ふるさと」は昨年とは違う歌詞が2番として歌われており、その歌詞に思わず引き込まれてしまいました。昨年の2番の歌詞も心に響きましたが、今年の歌詞は「私たち誰もが一人ではない。自ら強い思いをもっていれば、何かを成し遂げられるはず。誰もが心の中に支えてくれる人がいる。それがふるさとなのだよ!」と励ましてくれているように聞こえてきました。その歌詞をここに示しておきたいと思います。皆さん一人ひとり、それぞれのふるさとがあり、それぞれ感じられることが違うことと思います。



夕暮れ迫る空に 雲の汽車見つけた
なつかしい匂いの町に 帰りたくなる
ひたむきに時を重ね 想いをつむぐ人たち
ひとりひとりの笑顔が いま 僕のそばに
巡りあいたい人がそこにいる やさしさ広げて待っている
山も風も海の色も いちばん素直になれる場所
忘れられない歌がそこにある 手と手をつないで口ずさむ
山も風も海の色も ここは ふるさと



朝焼け色の空に またたく星ひとつ
小さな光が照らす 大いなる勇氣
何気ない日々の中に 明日の種を探せば
始まるの鐘が響く いま 君のために
雨降る日があるから虹が出る 苦しみぬくから強くなる
進む道も夢の地図も すべては心の中にある
助けあえる友との思い出を いつまでも大切にしたい
進む道も夢の地図も それは ふるさと
僕の ふるさと ここは ふるさと



<昨年歌われた 2番の歌詞は…>

写真の中の声が ふと恋しくなった
夢を語りあった日々 輝いていた
あの頃と同じように 空を見つめる木々たち
揺るぎなきその強さが いま 僕の胸に
支えあいたい人がそこにいる 明日を信じて歩いている
花も星も虹の橋も すべては心の中にある
生きることで感じる幸せを いつまでも大切にしたい
花も星も虹の橋も 君の ふるさと
僕のふるさと ここは ふるさと



いかがですか。ここボストンで暮らす皆さんにも、必ず心の拠り所となるふるさとがあることと思います。振り返ると、自分を支えてくれていた景色やそこにいた人々、親や先生の温かい言葉、それら一つ一つが今の自分を支えてくれていることと思います。

インターネットで調べてみたところ、この曲は平成25年度のNHK全国小学校の部課題曲に選ばれたとのことでした。作詞は小山薫堂氏で、2番の歌詞としてどちらが使われるのかは知りませんが、この歌を通して、小学生の頃から拠り所となるふるさとを大事にする心が育つといいと思います。

さて、「一年の計は元旦にあり」。昨年も新しい年を迎え、同じことを書きました。平成25年を迎えて、皆さんはもう今年の目標を立てましたか。「ふるさと」の歌詞の中にも、「何気ない日々の中に 明日の種を探せば 始まりの鐘が響く ～ 進む道も夢の地図も すべては心の中にある」とあるように、始まりの鐘は自ら種を探さなければ鳴り響きません。この一年が、皆さんにとって有意義な一年となることを願っています。

